

- アーノンクール, ニコラウス 『古楽とは何か : 言語としての音楽』 樋口隆一, 許光俊(訳)  
東京 : 音楽之友社 1997年
- ウェーバー, ウィリアム 『音楽と中産階級 : 演奏会の社会史』 城戸朋子(訳) 東京 :  
法政大学出版局 2015年
- ウェーバー, ウィリアム 『音楽テイストの大転換 : ハイドンからブラームスまでの演奏会  
プログラム』 松田健(訳) 東京 : 法政大学出版局 2016年
- 小田部胤久 『西洋美学史』 東京 : 東京大学出版 2009年
- クック, ニコラス 『音楽とは : ニコラス・クックが語る 5つの視点』 福中冬子(訳)  
東京 : 音楽之友社 2022年
- グラウト, ドナルド・ジェイ, クロード・V・パリスカ 『新西洋音楽史(上)(中)(下)』  
戸口幸策, 津上英輔, 寺西基之(訳) 東京 : 音楽之友社 1998年
- Burkholder, J. Peter, Donald Jay Grout, Claude V. Palisca. *A history of Western music*. Tenth edition.  
New York: W.W. Norton & Company, 2019.
- 椎名亮輔(編著), 三島郁, 筒井はる香, 福島睦美 『音楽を考える人のための基本文献 34』  
東京 : アルテスパブリッシング 2017年
- デッラ・セータ, ファブリツィオ 『19世紀イタリア・フランス音楽史』 園田みどり(訳)  
東京 : 法政大学出版局 2024年
- 西田紘子, 安川智子(編著), 大愛崇晴, 関本菜穂子, 日比美和子 『ハーモニー探究の歴史 :  
思想としての和声理論』 東京 : 音楽之友社 2019年
- ハキム, ナジ, マリ=ベルナデット・デュフルセ, 野平一郎(日本語版監修) 『音楽アナリ  
ーゼのための実践ガイド』 野平多美, 伊藤靖浩, 横川晶子(訳) 東京 : 音楽之友社  
2022年
- ヘインズ, ブルース 『古楽の終焉 : HIP〈歴史的知識にもとづく演奏〉とはなにか』 大  
竹尚之(訳) 東京 : アルテスパブリッシング 2022年
- ホフマン, フライア 『楽器と身体 : 市民社会における女性の音楽活動』 阪井葉子, 玉川  
裕子(訳) 東京 : 春秋社 2004年
- ボンズ, マーク・エヴァン 『「聴くこと」の革命 : ベートーヴェン時代の耳は「交響曲」  
をどう聴いたか』 近藤譲, 井上登喜子(訳) 東京 : アルテスパブリッシング 2015  
年
- ボンズ, マーク・エヴァン 『ソナタ形式の修辞学 : 古典派の音楽形式論』 土田英三郎  
(訳) 東京 : 音楽之友社 2018年
- ボンズ, マーク・エヴァン 『ベートーヴェン症候群 : 音楽を自伝として聴く』 堀朋平,  
西田紘子(訳) 東京 : 春秋社 2022年
- ボンズ, マーク・エヴァン 『絶対音楽 : その理念史』 堀朋平, 西田紘子(訳) 東京 :  
春秋社 2026年
- 松本直美 『ミュージック・ヒストリオグラフィー : どうしてこうなった? 音楽の歴史』

- 東京：ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスミュージックメディア部 2023年
- 村田千尋 『西洋音楽史再入門：4つの視点で読み解く音楽と社会』 東京：春秋社 2016年
- 吉田寛 『「音楽の国ドイツ」の系譜学3 絶対音楽の美学と分裂する「ドイツ」：十九世紀』 東京：青弓社 2015年
- リーヴィー, エリック 『第三帝国の音楽』 望田幸男（監訳）, 田野大輔, 中岡俊介（訳） 名古屋：名古屋大学出版会 2000年
- ローゼン, チャールズ 『古典派音楽の様式：ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン』 大久保賢, 中村真（訳） 東京：音楽之友社 2021年
- 渡辺裕 『聴衆の誕生：ポスト・モダン時代の音楽文化』 東京：中央公論新社 2012年